

酪農教育ファーム活動が制度化されて10年以上が経過する。「いのちの大切さ」を知ってもらい「食育」に効果をもたらすその活動は教育界から高い評価を得ている。半面、活動を担う認証牧場は全国で約300にとどまり、停滞感は否めない。酪農

に理解を深めてもらうための教育ファーム活動は「いかに持続するか」が新たな課題となってきた。10、11月号では「継続」をキーワードに酪農教育ファームの今後を考える。

# 母から子へ…受け継がれる「いのちの教育」

## 体験者の喜ぶ姿が明日への励みに

京都府南丹市八木町 谷牧場

京都府南丹市は、京都府立農芸高校や雪印メグミルク(株)の二つの施設(京都工場、京都工場池上製造所)が立地するなど、教育から生産、加工に至る京都酪農の一大拠点。京都工場池上製造所の目と鼻の先、同市八木町に谷啓司さん(62)の牧場がある。

谷牧場は、2007年に酪農教育ファームの認証を取得し、妻の幸(みゆき)さん(62)を中心に家族一丸で、酪農教育ファーム活動や消費者との交流に積極的に取り組んでいる。工学系の大学を卒業後、大阪府内での2年間の会社員生活を経て03年に就農した長男で後継者の学さん(36)も今年2月、母に次いで酪農教育ファームファシリテーター資格を取得し、幸さんが進めてきた「いのちの教育」を受け継ごうとしている。



「牧場を訪れる消費者の声が何よりの励み」と幸さん (写真提供：(一社)中央酪農会議)

### 家族の理解を得て決断

幸さんが酪農教育ファームの認証を取得しようと思ったのは「いじめ問題など子どもに関する痛ましい事件、事故を日常的に見聞きして心を痛めていた折、たまたま酪農教育ファームの牧場体験に触れる機会があり、いのちの大切さを教えるには最適と感じた」から。消費者だけではなく子どもたちにも酪農体験をさせたいと思った。

「家族の理解があって」東京で行われる研修に出向き、ファシリテーターの資格を取得した。啓司さんは「消費者に生産現場を

見てもらうのは酪農家にとって大切なこと」と、幸さんを後押ししてきた。

幸さんは大阪府能勢町の農家出身で、独身時代は大阪市内で会社勤めをしていた。その時から都会の人を田舎に連れて行きたいとの思いを温めていた。結婚後もグリーンツーリズムに興味を抱き何度か民泊を受け入れ、自宅周辺に本格的な民泊施設を建てようとしたが、農業振興地域のために断念した経緯がある。「酪農は3K(汚い、きつい、臭い)と言われ、酪農家の中には関係者以外ほとんど会うことがない人も多い。私も牛舎の周りに朝から晩までいたが、牧場をオープンにして、消費者を受け入れたいという思いが強ま

り、学が就農して時間も取れるようになったので教育ファーム活動に取り組もうと決意しました」

### 生産現場から食の安全・安心を発信

谷牧場の体験メニューは、子牛の哺乳・搾乳体験、牛の観察、いのちと食の大切さの説明や酪農の仕事についての話などの他、バターづくりに加えて、最近ではアイスクリーム、カッテージチーズづくりの体験も取り入れている。

牧場の前に乳業工場があることで、消費者に食の安全・安心について説明する機会も多い。「大人の牧場体験を受け入れたときは、食の安全・安心について特に力を込めて話しています。わが家の牛たちに与える飼料は、自給飼料ではなく輸入粗飼料。輸入した餌の安全・安心をどのように担保しているのかを消費者の皆さんにしっかり説明し、乳を搾っている現場に入っていたく」

来場者は口蹄疫が発生するまでは年間約1,000人を数え、去年は地元や京都市内の小学生など延べ800人が来場した。今年は学さんたちが地元のケーブルテレビの番組に出演したことで「地元の牧場でもこんな体験ができるのか」と活動が知られ、来場

### 認証牧場向け支援ツール

(一社)中央酪農会議は、酪農教育ファーム活動に役立つ各種ツールを認証牧場に提供しています。

タペストリー

牛の一生  
牛のからだ  
牧場のしごと  
牛乳のできるまで

子牛の子宮内パネル  
牛の胃袋パネル

紙芝居 (7種類)

人間と牛とのかかわり／牛乳がとどくまで／牛乳からできるさまざまな製品／牛のからだ／牛の一生／牧場の仕事／牧場でのやくそく

この他、「手洗い大作戦」酪農体験学習マニュアルなど、パンフレット、小冊子などを用意しています。



# 継続を力に！酪農教育ファーム活動のこれから①



者は昨年より増えるともみている。

雪印メグミルク(雪メグ)を通して牧場見学の依頼もある。「わ

が家で搾った生乳が隣の工場加工されるまでを1日で見る事ができる。社会科の格好の教材になるんです」と学さん。雪メグと関西の地場スーパーがタイアップした牧場見学ツアーも受け入れている。

購入飼料の急騰に端を発した2008年の「平成の畜産危機」の折、幸さんは大阪市内で消費者を前に酪農生産現場の大変さを訴えた。「実際に現場で従事している人が危機感を伝えると、より深刻な問題として理解していただけた気がしました」と、酪農家が消費者と接点を持つ大切さに触れる。

牧場は乳牛約100頭(うち経産牛80)を飼養し、1日の生乳出荷量は約2tに及ぶ、都府県では比較的大規模の家族経営。日々の牛舎作業を続けながら、教育ファーム活動を展開するには大変なことも多い。だが幸さんは「来場者の中には牛舎に入ったとき、『臭い』などいろいろ言う人がいますが、体験を終えて帰るときはめっちゃ喜んでくれる。私たちは休みがなくて大変な面もありますが、体験者がこんなにも喜んでくれるのならば、と励みになっています。来場者がバスに乗って帰るときは、腕がだるくなるまで手を振ってしまうこともあるんです(笑)」と話し、「消費者と接する機会はなかなかないので、取り組みは私たちにとって励みになり、貴重な時間」と力を込める。

## いのちの大切さを伝える難しさも経験

学さんは酪農教育ファーム活動のこれからについて、「小学1、2年生くらいだと

私たちの話を聞くだけでは、なかなか理解できない面もありそう。そこで小学校に子牛を預けて、牛を世話させるようなこともしたい。その方が印象に残るし理解も早まるのでは」と、牛を育てる体験を通じて子どもたちにいのちの大切さを伝えたい考えた。



昨年行った浜寺小学校5年生の酪農体験授業(写真提供：(一社)中央酪農会議)

去年は酪農教育ファーム近畿推進委員会と(一社)中央酪農会議が共同で行った大阪府堺市立浜寺小学校のモデル実践研究に協力。同校の5年生を牧場に2回受け入れ、酪農体験や幸さんが話をした他、小学校で出前授業

も行った。

出前授業で、幸さんは、はっとする体験をした。「授業をしていて子どもに『雄が生まれたらどうするの?』と聞かれた。いのちの大切さを伝えてきたのに、『いのちをお金で売るのは?』と言われたときは、どう答えればいいのか迷いました」

このときは、牛はペットではなく「経済動物」であることを理解してもらえるように、牛の一生を分かりやすく説明したという。「いのちが大事だと言っているのに、牛が何万、何十万円という価格で売られていくのは、子どもには受け入れられない部分があるのでしょ」と、幸さんは子どもたちにいのちの大切さを伝える難しさをしみじみと話す。

今年も牧場では9~11月に、浜寺小学校の5年生を受け入れる予定で、心待ちにしているという。

幸さんに続きファシリテーターとなった学さん。幸さんの思いから

### 【谷牧場の概要】

もともとは材木商を営んでいたが、学さんの祖父・多門さんが1940年代に牧場を始め、学さんで3代目。学さんが就農した2003年3月に、合併前の旧八木町では初となる家族経営協定を締結し、地元で話題になった。牛舎作業は学さん、啓司さん、従業員の小島範子さん(19)の3人で行う他、学さんの妻・光美(てるみ)さん(36)が哺乳などを手伝う。2012年の出荷量は約730t、1頭当たり日乳量は約30kg、平均産次2.5



2007年に酪農教育ファームの認証を取得した谷牧場。03年に建てたフリーストール牛舎が体験学習の実習の場

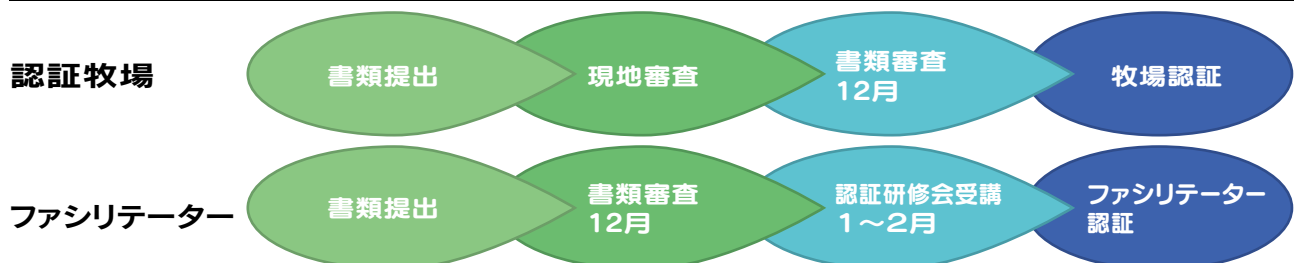
走り出した谷牧場の酪農教育ファーム活動は、次世代へ確実に受け継がれようとしている。

【構成・斎藤 丈士】



親子で酪農教育ファーム活動に取り組む谷牧場の皆さん。左から学さん、啓司さん、幸さん

### 認証までの手順(平成25年度スケジュール)



※認証牧場は「場」、ファシリテーターは「人」の認証です。両方合わせて認証ができますし、ファシリテーターのみの認証も可能です

### お申し込み方法

認証牧場認証申請書、ファシリテーター認証申請書に必要事項をご記入の上、お申し込みください。※申請書類に関しては、酪農教育ファームホームページからダウンロードしていただくか、事務局までお問い合わせください

認証研修会(予定)  
— 1泊2日 —

会場  
日時

札幌  
平成26年1月16~17日

東京  
平成26年1月30~31日

大阪  
平成26年2月20~21日

認証制度に関して詳しく知りたい方は、(一社)中央酪農会議業務部(佐藤・星井)にお問い合わせください。

(一社)中央酪農会議 〒101-0047 東京都千代田区内神田1丁目1番12号 コープビル9階  
Tel(03)3219-2611 Fax(03)3219-2622  
http://www.dairy.co.jp/edf/